

# 緑の相談所だより

第53号

夏～初秋号 1998. 8. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

## 緑のセンターまつり'98 開催

とき 8月9日 午前9：30～午後6：00

ところ 旭川市緑の相談所周辺（神楽岡公園内）

催し物 展示会 ラン、山野草、盆栽、農高生徒作品、押し花など  
園芸市、花と緑の相談コーナー、フリーマーケット  
花株球根プレゼント、親子餅つき大会と試食、ビンゴゲーム、  
農産物の販売、納涼ビアガーデン・・・  
YOSAKOIソーラン祭り氷点優耕翔による踊りなど。

☆☆☆☆たくさんの皆様のお越しをお待ちしております。☆☆☆☆

### ◆◆9月の講習会のお知らせ◆◆

#### 野性ランの育て方

日時 9月13日（日）  
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所  
相談員 本郷 仁

#### 冬にむけての鉢もの管理

日時 9月27日（日）  
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所  
相談員 佐野元雄

定員はいずれも50名 無料 お申し込みは☎65-5553へ

# ニューギニア・インパチェンス

科名 ツリフネソウ科 非耐寒性多年草

原産地 ニューギニア

## 剪定

徒長している枝は摘心して脇芽を出させます。株が大きくなりすぎたら全体を切り戻し形を整え直します。



## 置き場所

日陰でも育ちますが、なるべく明るいところへ置いてやります。夏の直射日光は、株を傷めますので、半日陰に移すか、遮光をして保護します。



株が大きくなりすぎたら全体を切り戻す

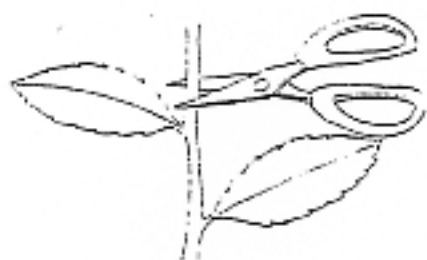
## 灌水

水を好むので乾燥させないようにします。表土が乾いたらたっぷりと与えます。

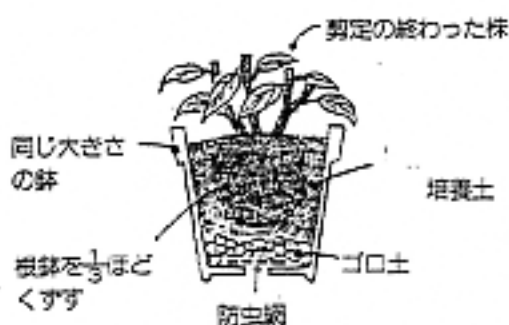
## 肥料

栽培中に葉の色が薄くなってきたら、1000倍程度に薄めた液体肥料を週に1回施します。

## 植え替え



徒長した枝は摘心して脇芽を出させる



## ヘチマとヒョウタンとオモチャカボチャ

3種とも熱帯地方原産のウリ科の植物で、ツルの伸び方もよく似ていて旺盛に繁り、棚に仕立て日除けにしたり、果実の利用も楽しめ、作り方も比較的簡なので1度は植えてみたい作物です。

### ○ ヘチマ (糸瓜)

ヘチマ水、ヘチマたわしなどでお馴染みの植物ですが、若い果実を食用にすることもでき、棚作りにするのでよい日除けにもなり、観賞用としてもなかなか風情のあるものです。

・ヘチマたわし ~ 果実の表面が黄褐色になりだした頃収穫し、水に10日程漬けて置くと皮が柔らかくなるので、軽くたたきながら果肉、種子を除き、残った繊維を洗って天日にさらし良く乾燥させて出来上がり。

・ヘチマ水 ~ 9月に入ってから、根元から50cm位の所で茎を切り取り、地面に残った茎の切り口の先をピンなどに差し込くと、根から吸い上がった水がピンの中に溜まります。この水を冷蔵庫などに保管し化粧水として適時利用します

### ○ ヒョウタン

同じ種類にユウガオがあり干瓢の材料として利用されますが、ヒョウタンの方は食用にはなりません観賞用として作って楽しい作物です。いづれも生育旺盛で、特にユウガオはスイカの病気を防ぐ接木用の台木としてに活用する程です。

ヒョウタンについては大昔から世界各地で種々の容器として利用するなど重要な植物のひとつでしたが、いまはその独特な形を楽しむ愛好家の多い作物です。大きな実のなる種類と沢山の小果をつける千成りヒョウタンがありますが、栽培はどれも簡単です。

・ヒョウタンの果実の処理法 ~ 完熟して皮が硬くなった実の先に種子が出る程度の小さな穴をあけ、水に漬けて中身を腐らせます、中身ががどろどろになったら種子を取出し、中を良く洗って乾かした後、好みに油など塗料を塗り出来上がりです。この種子の取出しがちょっと面倒でもありますが楽しみな作業です。

### ○ オモチャカボチャ

カボチャは食卓でお馴染の野菜ですが、この頃はズッキーニ、星形をしたカボチャなど変りものも登場するようになってきました、これらは従来のもので違いペポカボチャに分類される種類で、この中に食用にはなりませんオモチャカボチャと呼ばれ色も形も面白く、貯蔵性も高いので観賞用として作られる種類もあります。

どのカボチャも生育は旺盛で棚作りもできますので、従来のものでオモチャカボチャでも特にオモチャカボチャなど変った眺めが楽しめます。

## 八月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・夏花壇の花がら摘みと追肥、秋花壇の植え込み。サルビア、キンギョソウなど花がまばらになった株は一斉に切り返しをする。春花壇用の苗の移植は下旬から。秋植え球根は中旬以降定植。正月頃咲かせたいスイセンやチューリップは湿ったミズゴケに包んで冷蔵庫の中へ保管する。
- \* 鉢花・・・中旬以降は夏負け気味の鉢物にも元気が戻り、花や葉の色も冴えてきます。追肥の時期です。高温を好む熱帯花木や熱帯性の球根類は夜間室内に取り込んだ方がよい。中旬以降は夕方から夜の灌水は禁物。天候に合わせて日除けの掛け外しを行うが、月末になる遮光が不要になる物が多い。挿し木苗の根がしっかりしたら鉢上げをする。
- \* 観葉植物・・・鉢花と同じように日除けの掛け外しを下旬まで繰り返す、徐々に直射日光に馴らす。中旬から置き肥や追肥をする。室内での越冬が理想的に出来る場合や、ハウス、温室などがある場合は下旬が株分け、植え替えの適期。高温を好む種類は中旬以降夜間は室内に取り込む。
- \* 洋蘭・・・熱帯産の多い洋蘭にも中旬の気温は高すぎる場合が多いので、風通しを良くし涼しく管理します。夏咲き以外のカトレアでは休眠中の株が多いので灌水には注意。下旬には日除けを50%程度にする。最低気温が10℃を下回る時間が3時間以上続くようになればカトレア、バンダ、デンファレ、ファレノプシスなど高温性の種類は夜は室内へ。シンビジューム、デンドロビュームのバルブが充実してきます。シンビジュームは中旬から花芽分化が始まります。急激な環境変化を避けて、十分涼しさに合うことが出来るよう管理します。新芽の伸びて来る種類や株には灌水と肥料やりをしますが濃い肥料は禁物です。
- \* 盆栽・・・針葉樹や実物では中旬以降にカリ成分を主体に追肥、紅葉する雑木類は追肥をしない。針金の掛け直しは下旬から。中旬以降徐々に気温が下がってくるので、鉢の乾きを見ながら灌水は多すぎないように注意する。
- \* 庭木・果樹・・・追肥をする場合はカリ主体に下旬から。果樹への防除は収穫期から逆算して、農薬の残効期間に注意する。袋掛けをしたリンゴは下旬に袋を外し日光に当てると色付きが良くなる。来春以降に移植予定の木の根回しは下旬以降に行う。

## 九月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・夜の温度が下がり花壇や秋咲きの宿根草の花の色が鮮やかになりますが、霜の心配がでてきます。小規模の花壇やダリヤの花などには新聞紙などで被いをしてやると、弱い霜なら防ぐことができます。秋植え球根類の植え付け適期、中旬迄に終わらせましょう。宿根草の株分け、植え付けも中旬までに終わらせると理想的。強い霜の後は春植え球根の掘り上げと貯蔵、夏花壇も終わりにになるので、株の後始末をして秋耕しをしておきます。ジャクヤクなどの宿根草の植え付け適期です。
- \* 鉢花・・・寒さに弱い鉢花は霜の来る前に室内へ取り入れる。熱帯花木等も同様。室内に取り入れる前は十分に日光にあて、室内の置き場所は涼しく湿度の保てるところが望ましく、極端に温度が高くなるところは避ける。植え替え、株分け等はこの時期は避けた方がよい。茎が伸びすぎた鉢物は室内に取り込むときに切り返してよい。球根ベゴニアは夕方から電灯の下で日長を長くする管理を続けると花が咲き続ける。短日性のロケア、ポインセチアは反対に日没後は灯りに当てないように注意する。椿、梅などはまだまだ屋外でよい。下旬には外で冬越しをする鉢物は来月の冬囲いに備えて整理して置く。屋内では灌水過多に注意する。サボテン類は下旬からは水を控え目に管理し、特にこれから花を咲かせたいシャコバサボテンは、温度の低い場所で鉢を異動させずに管理するように心がけます。
- \* 観葉植物・・・早霜に注意。中旬以降は室内へ取り入れるが、暖かい日中は外でよい。室内では湿度不足に加えて日光不足になるので注意する。室温も高すぎないように涼しく管理する。
- \* 洋蘭・・・高温性の種類は中旬には日中も室内へ取り込む。シンビジュームやデンドロビュームも霜が心配の夜は室内へ。日中は十分光に当てる。秋の長雨には当てないこと。デンドロビュームは下旬からは灌水を極端に控え目にする。シンビジュームは、小型種は花芽が大きくなっているし、冬咲きの大型も花芽の分化が進んでいる時期なので、急激な環境変化は避けて、涼しい環境で管理する。カトレアなどの株分けは温度条件をみて行うが冬咲きの種類では行わない。
- \* 盆栽・・・紅葉を楽しむ雑木物を除いて上、中旬に追肥してもよい。カエデ類は風を避けて管理する。長雨が続くときは鉢の片方に枕をかけて鉢を傾ける。台風心配があるときは棚の下に置くか建物の中に取り込む。霜が一、二度来ると紅葉が始まります。風を避け、湿度を保ち、涼しく管理すると長時間紅葉を楽しむことができます。盆栽全般の活動が鈍ってくる時期なので、灌水過多には注意が必要です。
- \* 庭木・果樹・・・果樹は上～中旬を目当てにカリ、リン酸分を主体に追肥をする。移植・定植の適期でもありますが、冬の風の強い場所や寒さの厳しい地方は春の方がよい。根回しについても同様です。フジは下旬から伸びすぎた蔓の剪定時期です。蔓の先を浅く切るようにし、本格的な蔓切りは落葉後か春の芽だし前に行います。早生のブドウやリンゴの収穫も始まります。木で十分熟させてから収穫した方が、味の良い果実になることは言うまでもありません。